



穴をあけて綴じてください



### 古い歴史をもつ六郷神社の子ども流鏝馬

—撮影・石原裕之—

## 初詣は氏神さまから

### 崇敬会会員の昇殿参拝

平成11年1月3日 午前10時30分(第1回)  
午前11時30分(第2回)

1月3日の午前10時30分と11時30分の2回、崇敬会会員とその家族にかぎり、昇殿参拝の式をおこない、神社から神酒と特別な御札が授与されます。

崇敬会では、新春記帳所を設けますので、ご記帳のうえ、御供物をお受け取りください。なお境内には、甘酒進上の席も用意いたします。多数ご参拝ください。

### 七草流鏝馬祭ななくさやぶさめさい —1月7日午後1時—

鎌倉時代から伝わるといふ七草流鏝馬祭は、1月7日午後1時より執り行われます。

厳粛な式典後、境内に設けられた射場に進んだカミシモ姿の男児が開運・健康・出世のねがいをこめて、つぎつぎにヤアーツと勇ましく矢を射ります。雨天決行。

# 東京都無形民俗文化財 六郷神社の子ども流鏑馬

六郷神社の流鏑馬は、毎年1月7日に男の児の開運・健康・出世を祈願する行事として、昭和39年、東京都の無形民俗文化財に指定されています。

古くは、「弓射り」とも称し、源頼朝の奉納に始まるという伝承があります。

社前に設けられた射場的には、18本の青竹を矢来（やらい）に組んでヨシズをはり、そのうえに「八方白眼」という、それぞれ異なる眉と眼を8つ、縦2列に描いた和紙を、大きな蛇の目の中央にはったものです。

この八方にらみの的に向かって、カミシモ姿に刀を差した射士が歩いて行き、神社役員の介添えで次々に射るわけです。

弓は椿の木に麻の弦をはったもので、矢は長さ1メートルほどの篠竹に、西之内の矢羽を付けたものを用います。

射士は、氏子の12歳以下の男の児に限られ、射る順番は抽選で決められます。

まず1番と2番が「山越し」といって、矢を交差させ、的の上を越すように射りますが、そこには3本の大きな御幣が立っています。九州の宇佐八幡宮ではこれを「川御幣」と称していますが、おそらく的を射ることによって邪気を祓い、それを川に流すという古来の信仰に基づくものと思われる

ます。六郷神社でも矢を射る方向に、多摩川が流れているのが暗示的です。

さて山越しがすむと、3番と4番が「一の目玉」を、5番と6番が「二の目玉」という具合に射り進みます。

以上のように、六郷神社の子ども流鏑馬は、馬に乗らずに歩いて的を射る「歩射」という伝統を守ってきました。



ユニークな「八方にらみ」の的の前に据えられた檜造りの木馬（平成10年1月7日）

しかしながら時代は大きく変化し、今までの形式では物足りないとの声が高まり、それが射士の減少にもつながっているとあって、ことしからは八方にらみの幕の前に置いた木馬にまたがり、正方形の杉板の的に鏑矢を射るといって、新しい様式が採り入れられました。

いうまでもなく流鏑馬は、武士が馬に乗って走りながら鏑矢を射る弓技で、鏑矢を用いることから「流鏑」という漢字があらわれています。そうした意味からすれば、新しい様式は流鏑馬本来の姿に近づいたもの、といえないことはありません。

しかし、六郷神社の流鏑馬は、多摩川流域に残る「歩射」という貴重な民俗行事として、東京都から無形文化財としての指定を受けているものであり、時勢に応じた改変もさることながら、歩射とはこのようなものだという昔からの基本を、なんらかの方法で伝えていく必要があるように思われます。

たとえば1番・2番の射士が、椿の弓に篠竹の矢をつがえて山越しを行い、ついで3番・4番が、和紙に描いた八方にらみの一の目玉を射抜くという、原形の初めだけをそのまま残し、それに続く射士から木馬にまたがって鏑矢を射るといって折衷案などはどうでしょうか。古式を守るための検討を期待したいものです。

（平野順治）

十月八日・日帰りバス旅行  
筑波山神社正式参拝  
伊能忠敬記念館見学

久しぶりのバス旅行には、鈴木宮司・森田会長をはじめ43名が参加しました。午前7時ぴったりに神社前を出発。渋滞もなく



筑波山神社拝殿前にて — 撮影・吉田恒男 —

常磐自動車道を北上。心配された曇り空も筑波山神社に着くころには、すっかり晴れ上がっていました。

森殿の気張りつめた昇殿参拝後、ケーブルカーで山頂へ。関東平野を一望とまではいきませんが、下界の眺めは雄大そのもの。「万葉の歌壇」などを語りつつ、神酒で乾杯した昼食後、表つくばスカイラインを通過して佐原市へと向かいました。

「北総の小江戸」といわれた佐原の町では、50歳を過ぎてから四千万歩をあるき、はじめて精密な日本地図を作成した伊能忠敬の旧宅と新しくできた記念館を見学、その偉大な業績をしのびました。ちょうど秋祭りの前日とあって、見事な山車が小野川ぞいに通るのを見物することもできて、みんな大よろこび。予定どおり午後7時すぎ無事帰着しました。

十一月三日・創立記念日  
恒例の献木式と添釜

文化の日の11月3日は、崇敬会の創立記念日です。この佳き日に、崇敬会では平成2年より、紅梅、しだれ梅、しだれ桜、もみじ、しだれもみじ、花水木などの献木をして参りましたが、ことしは「百日紅」を



みどりの芝生で「和敬静寂」のひとつとき

芝生の庭園に記念植樹しました。

暖かな快晴にめぐまれた今年の3日は、大安吉日と重なったため、七五三の親子連れも例年になく多く、献木式に引き続き行われた大日本茶道協会のみなさんの奉仕による添釜（野点形式の茶会）には、席の順番を待つ人の列ができるほどの盛況を呈しました。

みどりの少なくなった「六郷わがまち」にとって、鎮守の森はまさに心のオアシスであり、大切にしたいものです。

# 崇敬会第4期役員決まる

平成元年11月3日にスタートしてから、崇敬会は多彩かつ充実した活動を続けて参りましたが、このほど第3期役員任期満了にともない、6月28日の第9回定期総会において会則による所定の手続きを行い、左記のとおり第4期役員を選出して、さらなる発展を期することになりました。会員みなさまのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

宮司	市川 昂	持田 博美	清水 秀治
禰宜	井上 富子	森 繁春	杉山 恵一
顧問	岩崎 勝之	吉崎 武守	高橋 好行
山口 四郎	梅崎 博之	吉野 倫子	田畑 久雄
一色 孝雄	上川 一枝	吉野 倫子	徳永 真一
鈴木 明	杉山 博	石原 篤	坂東 栄三
与色 孝雄	須山 温夫	伊東 光治	東澤 修二
梅沢 喜代造	高橋 準一	今泉 光洋	平野 操
森田 賢治	橋本 恭央	江部 謙五	福田 和子
副会長	長谷川 蔵吉	奥村 孝愛	藤野 美知子
平野 順治	小林 キヌエ	小崎 公孝	前嶋 唯七
喜多 絹子	本多 薫	加藤 喜市	吉田 エミ子
平野 順治	前田 昭子	川輪 雅夫	代田 秀雄
増淵 昭子	川田 桂太郎	川田 清夫	林 孝嘉
足利 幸吉	宮崎 ゆき子	川田 博之	
石井 君子	宮崎 豊	塩沢 章	
常任理事 (五十音順)			
理事 (五十音順)			
監事			

## ◆ 創立10周年記念行事準備委員会

6月28日の定期総会の決議により、このほど委員として、森田賢治、平野順治、喜多絹子、吉野倫子、吉田恒男、増淵国昭の六氏が選出されました。

## ◆ 六郷ばやし産業プラザで演奏

崇敬会育成の六郷ばやし（木村和治郎氏指導）は明年1月6日、六郷地区新年顔合わせ会に招かれ演奏します。

## ◆ 第22回六郷のどんと焼き

1月7日午後1時30分点火。場所は六郷橋の下流約300メートルの河川敷。

## ◆ 新入会員紹介

南一・梅崎博之 福田和子 南二・沼澤尚子 樋口敬二 東三・吉田エミ子 仲三・廣木隆 大野宗一 西一・外川晴男 南蒲田二・安藤朱美

## ◆ 訃報

平林キヌエ氏（崇敬会常任理事）平成10年12月2日逝去。61歳。謹んで生前のご尽力に感謝し、ご冥福を祈ります。

発行 六郷神社崇敬会

〒144-0046 大田区東六郷三十一十八

六郷神社事務所内

電話 〇三三三七三一―二八八九

振替 〇〇一九〇六一―一三五五三

編集 平野順治